

浜研通信



第4号
平成24年6月

研究成果のご紹介

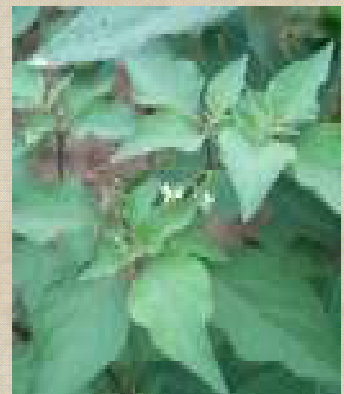
これまでの成果を季節に応じてお知らせします。

大豆栽培における雑草 イヌホオズキ類の生態

近年、大豆栽培ほ場においてイヌホオズキ類が多発生し、大豆の減収や汚損粒の原因となっています。

昨年の試験結果からイヌホオズキ類の最低発芽温度は 20℃前後であると考えられました。また、暗条件下でも発芽することを確認しています。種子に対する覆土深は深くなるほど出芽率が低下し、覆土深 4 cm では出芽はみられませんでした。

昨年の 6 月上旬播種の大豆圃場では、出芽は 10 月まで続きました。また、6 月中に出芽した個体は開花・結実に至りましたが、7 月以降に出芽した個体は開花に至りませんでした。しかし、大豆の欠株などで空間ができる場所では 8 月に出芽した個体まで開花・結実しました。今年度はイヌホオズキの生態をさらに詳しく調査し、効果的な防除法を探る予定です。



大豆ほ場に発生したイヌホオズキ類

塩害調査報告

津波の被害を受けた農地の
土壌調査の結果を報告します。

前年度に引き続き、津波被害を受けた水田土壌の塩分濃度と pH の定期調査を行っています。土壌塩分は、前回調査の 12 月中旬に比べどの地点でもさらに低下していました。その要因として、冬春期の降雨や調査水田での耕耘作業、除塩作業などが考えられました。依然として水稻栽培に不適な塩分濃度 (0.2%以上) を示す地点の例を表 1 に示しました。主に流入土砂が 10cm 以上の地点や、耕耘等されず土砂が放置されている地点などでした。

土壌 pH は相馬市大曲地区で低い状態でした (図 1)。この地区の水田で、土砂を鋤込み pH の調整を行わず作付けした場合は、生育不良等生じていないか観察に努めて下さい。

表1 土壌塩分濃度の高い地点の流入土砂の状況と被害後の対応

地点名	換算塩分濃度 (乾土%)	土砂厚 (cm)	土砂の土性	土砂の色	被害後の対応
大曲4(作土)	0.46	10cm	シルト	黒灰	耕耘(土砂鋤込み)
柚木2(作土)	0.24	5.5cm	シルト、砂	黒灰	耕耘(土砂鋤込み)
柚木4(作土)	0.27	21cm	砂	灰	手つかず
鹿島3(土砂)	0.24	10cm	シルト	灰	手つかず

注) 1) 換算塩分濃度(乾土%) = (EC-0.0434)/17.755 × 6

2) 土砂厚、土砂の土性、土砂の色及び備考は遠観調査の結果

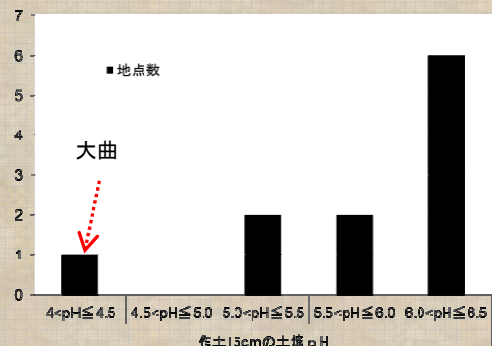


図1 土壌pHの分布と地点数

ただいま試験中

平成23年度より、新規試験課題がスタートしました。
ここでは、こういった試験を行っているのか紹介します。

放射性物質吸収抑制技術の開発

今年度、浜地域研究所で取り組む放射線対策試験の1つを紹介します。相馬市玉野地区の水田において水稻を対象にゼオライトとカリウムの試験を行います。ゼオライトは天然鉱物であり、放射性セシウムを吸着し作物への吸収抑制効果が期待できます。また、カリウム施用は昨年度の試験研究で確実な吸収抑制効果がわかったところです。

試験区は以下の5区で行います。

- ① ゼオライト 1t/10a
- ② ゼオライト 1t/10a に加え、作付け前の土壌カリ含量を 25mg/土壌 100g となるように土壌改良し、さらに追肥カリ量を現地慣行の2倍量とした区
- ③ ゼオライト 0.5t/10a
- ④ 追肥カリ量を現行慣行の2倍量とした区
- ⑤ 現地慣行区



ゼオライト散布後の圃場

これからも放射性セシウムを含まない玄米の生産に向け支援を行っていきます。

ブロッコリーの活着促進、収穫の斉一性向上

夏まきブロッコリーの定植1週間前から0.3%の食塩水をかん水して育苗すると苗の耐乾燥性が高まり、高温乾燥下の定植においても生育が揃います。これに加え、定植時に少量かん水を行うとより効果が高まることわかったため、本年度は塩水かん水した苗を用いて、移植機やブームスプレーヤにより定植時に省力的に少量かん水を行う技術開発に取り組みます。



作物の生育状況

稲、麦、大豆などの主要作物の生育に関して概況をお知らせします。(詳しくはHPへ!!)

〈麦の作況試験〉

昨年10月27日に播種した麦類の出穂期は、大麦「シュンライ」が5月2日、小麦「きぬあずま」が5月7日で、平年値より6日遅れました。また、5月1日調査での茎数は「きぬあずま」、「シュンライ」ともに平年値より多い状況でした。

〈水稻の作況試験〉

今年度は育苗期間中の高温と寡日照により、苗は徒長気味に生育しました。また、移植後は強風と寡日照で活着が遅れましたが、現在は出葉状況からみると平年並みまで回復しています。

編集・発行

福島県農業総合センター浜地域研究所

〒979-2542 相馬市成田字五郎右エ門橋100 TEL (0244)35-2633 FAX(0244)35-0319

ホームページ

http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/bu_hama/hama_index.htm